

令和3年度全国学力・学習状況調査【小中学校】平均正答率 偏差値一覧
都道府県別（指定都市を含む）（国公立）

都道府 県No.	順位	都道府県	小学生		中学生		小中合わせて？	
			国語偏差値	算数偏差値	国語偏差値	数学偏差値	偏差値 合計	1/4
0		全国	50.0	50.0	50.0	50.0	200	50
17	1	石川県	52.8	51.7	52.1	52.4	208.9	52.2
5	2	秋田県	52.8	50.8	51.6	51.1	206.2	51.5
18	3	福井県	51.9	51.2	51.1	51.5	205.6	51.4
13	4	東京都	51.4	51.7	51.1	51.1	205.2	51.3
16	5	富山県	50.9	51.2	50.1	50.6	202.9	50.7
26	6	京都府	51.4	51.2	50.1	49.8	202.5	50.6
2	7	青森県	51.9	50.3	50.6	49.4	202.1	50.5
22	8	静岡県	50.0	49.9	50.6	50.6	201.1	50.3
38	9	愛媛県	50.0	50.8	50.1	50.2	201.1	50.3
44	10	大分県	50.5	49.9	50.6	49.8	200.7	50.2
40	11	福岡県	50.5	49.9	50.1	50.2	200.6	50.2
10	12	群馬県	50.0	49.4	50.6	50.2	200.2	50.1
34	13	広島県	50.5	49.9	50.1	49.8	200.2	50.0
46	14	鹿児島県	50.9	50.3	49.6	49.4	200.2	50.0
39	15	高知県	50.9	50.3	49.6	48.9	199.7	49.9
33	16	岡山県	50.5	49.4	50.1	49.8	199.7	49.9
28	17	兵庫県	49.6	50.3	49.6	50.2	199.7	49.9
12	18	千葉県	50.0	49.9	50.1	49.4	199.3	49.8
9	19	栃木県	50.0	49.4	50.1	49.8	199.3	49.8
11	20	埼玉県	50.0	49.4	50.1	49.8	199.3	49.8
14	21	神奈川県	49.1	49.9	50.1	50.2	199.3	49.8
36	22	徳島県	49.1	49.9	50.1	50.2	199.3	49.8
35	23	山口県	49.6	49.4	50.1	50.2	199.3	49.8
21	24	岐阜県	49.1	49.4	50.1	50.6	199.2	49.8
6	25	山形県	50.0	48.9	50.6	49.4	198.9	49.7
20	26	長野県	49.1	49.9	50.1	49.8	198.8	49.7
43	27	熊本県	50.5	49.9	49.6	48.9	198.8	49.7
8	28	茨城県	50.0	49.9	49.6	49.4	198.8	49.7
19	29	山梨県	49.1	48.9	50.6	49.8	198.4	49.6
15	30	新潟県	49.6	49.4	50.1	49.4	198.4	49.6
37	31	香川県	49.1	50.3	49.6	49.4	198.4	49.6
23	32	愛知県	48.7	49.9	49.6	50.2	198.3	49.6
24	33	三重県	49.6	49.4	49.1	50.2	198.3	49.6

3	34	岩手県	50.0	48.9	50.6	48.5	198.0	49.5
31	35	鳥取県	49.6	49.4	49.1	49.4	197.4	49.4
41	36	佐賀県	50.0	49.4	48.6	49.4	197.4	49.3
4	37	宮城県	49.1	48.9	50.1	48.9	197.1	49.3
7	38	福島県	49.6	48.5	50.1	48.9	197.1	49.3
1	39	北海道	49.1	48.5	50.1	49.4	197.0	49.3
27	40	大阪府	49.1	49.9	48.6	49.4	196.9	49.2
30	41	和歌山県	50.0	49.9	48.1	48.9	196.9	49.2
45	42	宮崎県	50.5	49.4	48.1	48.9	196.9	49.2
42	43	長崎県	49.1	48.9	49.1	49.4	196.5	49.1
25	44	滋賀県	48.2	48.9	49.1	49.4	195.6	48.9
29	45	奈良県	48.2	49.4	48.6	48.5	194.7	48.7
47	46	沖縄県	50.0	49.4	47.6	47.6	194.6	48.7
32	47	島根県	49.1	48.5	48.6	48.1	194.2	48.6
		最高値	52.8	51.7	52.1	52.4	208.9	52.2
		最低値	48.2	48.5	47.6	47.6	194.2	48.6
		最高値－最	4.5	3.2	4.5	4.8	14.6	3.7

この表は、令和3年度全国学力・学習状況調査の正答率の値から、偏差値を計算し一覧表にしたものです。残念ながら、文科省は偏差値のデータを持っていると推察されますが、ご覧のように、偏差値にすると都道府県で差がないことが明らかなので、各都道府県のデータにしても正答率の小数点以下四捨五入で公表したり、標準偏差は平均得点の小数点以下1桁だけの公表としている。そのため、今回の計算も、正解率を主に用いて計算している。

今回の結果を偏差値に換算すると、全体にみて、最高値と最低値の差は3.2～4.8で、わが国では全国の平均値でみると地域差が少なく、どこにいても一定水準の教育を受けていることが分かる。地域差が少ないことは、教育の規格化が進んでいることを示し、ナショナルカリキュラム（学習指導要領）の効果を示している。英国のサッチャー政権が望んでもなしえなかったことを実現している訳である。広く知られているように、英国の全国学力テストの目的は、教育の地域差をなくし、テストを通じて教育内容の統一を図ることであった。その意味でも、わが国で全国学力テストを行う意義は薄いのでは無かろうか。

各市が、今回の結果を受けて、細かな差をいかに埋めるかという分析を公表している。しかし、木を見て森を見ずどころか、枝葉末節の論議になっている。全国との比較で、わが都道府県は落ち込んでいないので、都道府県内の個人間の学力差（統計的には偏差）を分析して、英才教育や補充教育に力を入れることへと政策の重点をシフトしていくことを考えなければならない。それをこの調査は示していると考えの方が、科学的な考えだと思われる。